

事業完了報告書（実行団体）

Version 3.2

日付： 2021年10月15日

| | |
|----------|---------------------------------------|
| 事業名: | 若者×ICTによる地域活性化プロジェクト |
| 資金分配団体名: | 一般財団法人リープ共創基金 |
| 実行団体名: | 一般社団法人サステイナブル・サポート |
| 実施時期: | 2020年10月～2021年9月 |
| 事業対象地域: | 岐阜県・愛知県 |
| 事業対象者: | 新型コロナウイルス感染症の影響により困窮状態にある、一般の就職が困難な若者 |

I. 事業概要

| | |
|---------------|---|
| 事業実施概要 | <p>コロナ禍で職を失った若者だけでなく、働くことに困難を抱える若者を対象に、職業訓練と地域をサポートする仕事を提供する。</p> <p>①「できること」が増えて仕事の楽しさを覚え、その成果物が目に見える形で残ることが自信につながる。</p> <p>②小学校や公共施設、地域活性化のサポートに従事し地域に貢献できることで就労意欲を高める。</p> <p>以上2点により、事業終了後の就労のきっかけになることを目指す。</p> <p>一方、コロナ禍でダメージを受けている地域においては、若者が関わることで活気を取り戻し、withコロナ時代のニューノーマルにおける地域づくりの仕組みを創る。</p> |
|---------------|---|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|--------------------------------|--|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | <p>就労支援事業を営む中、福祉につながる方の中に高等教育を受けている人が多くいることがわかった。就職活動がうまくいかず卒業後の進路が決まらなかったり、就職後につまづいて離職した若者が、自力で就職活動を続けたりアルバイトを転々し失敗が続く過程で自信を失くし、福祉や支援につながることなく社会から孤立していくことで、拗らせ最終的に福祉につながる。定職を持たない中にそういった層がいることが想定され、早めにサポートを受けることで就労につながるのではないかと課題設定をした。今回の応募者は24人、そのうち15名を採用（19～34歳、20代後半が多い）。就労経験がまったくない人が3名。アルバイトのみの人が7名。正社員での就労経験者は5名。その内、コロナで失業した人は1名だけであった。次に、就労が難しい若者は外部とはつながりにくく、募集にあたっては若者が興味を持ちそうな動画編集や簡単なウェブサイト作成のICT技能習得やビジネスマナーやコミュニケーションなどの職業訓練が受けられることを謳った。業務としては地域で困っていることに役立つ仕事を準備。想定通り応募数も上がったが、訓練についても個人のスキルの違いがあり、物足りない人、難しすぎてついていけない層がいた。また、思っていた内容と違うなどで離職する人もいたので、事前にしっかり業務について説明し納得してもらわないとなかなか就労継続が難しい層であるのでしっかりした準備は必要。また、コロナの猛威は衰えるどころか増える一方で、1期は飲食店が休業になったこともあり、Webマーケティングや動画編集の仕事が減り、当団体のHPや紹介動画、SNS作成に切り替えたがよい練習の機会となった。2期は飲食店ではなく、地域の活動団体にご協力いただき広報業務を進めることができた。連携する中、地域の企業・団体にCFWの目的を説明し理解してもらえたことは、現在の課題についての啓発にもなった。</p> |
| 助成事業実施を通じた団体の成長に関する振り返り | <p>当団体が行っている障害者の就労支援事業のその制度からもれている「障害受容はないが発達特性が強く、就活・就労が難しい若者」の支援「キャリプロ」事業では、対象が広がってくるのが非常に難しく事業推進の課題であった。しかし、今回のCFW事業で就労を切り口に募集したところ、「キャリプロ」の対象層の応募が多く見られた。今後キャリプロの事業の入り口を考えるいい機会となった。また、若者の就労支援の実績、スタッフの雇用、教育委員会や地域とのつながりも深まったことで、新たにダイバーシティ就労支援のしくみづくりなど次の就労支援事業への展開が見えてきた。</p> <p>また、規定類の整備に伴い組織の見直しをする機会となった。</p> |

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ①受益者 | ②課題 | ③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④指標 | ⑤目標値・目標状態 | ⑥結果 | ⑦考察 |
|---------|------|--------------------------|----------------|-----------------|--|--|
| ワーキングペア | 就業困難 | ICT技能習得訓練を提供 | 訓練参加者数、訓練実施時間数 | 12人、48時間（1期）×2期 | 11名 （途中入退社含む） 24時間（1期）×2期 | 個人の元々のスキルによって技術の習得度は異なるが、初めて動画編集ソフトを使う人がほとんどで、業務の向き不向きは感じたようだ。できる人はスキルアップにつながった。 |
| ワーキングペア | 就業困難 | 就労スキル習得訓練を提供 | 訓練参加者数、訓練実施時間数 | 12人、32時間（1期）×2期 | 11名 （途中入退社含む） 1期目14時間 2期目20時間 | 過去にビジネスマナーなど、「働く」に必要なビジネススキルを学んだ機会はほとんどなく、自分がどんな状況にあるのかの自己理解は進んだと考えられる。 |

| | | | | | | |
|---------|------|---------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|---|--|
| ワーキングプア | 就業困難 | 報酬を支給 | 支払い金額 | 600万円 | 15名雇用 フルタイム(6h×5日)13名 パートタイム(6h×4日)1名 (3h×5日)1名 ※途中退職者3名 報酬・手当5,506,686円 | 収入を得ることができること、社会保障に加入できることで、今まで就労経験が無かったり薄かったりする若者の契約期間の就労継続意欲につながった。 |
| ワーキングプア | 就業困難 | 職を得ることができる(事業完了時) | 職を得ることができる | 6人 | 非正規6人 | コロナで職を失った方1名 当団体からの紹介等2名 縁故関係1名 障害枠雇用2名 |
| ワーキングプア | その他 | 職を得ることができる(半年後) | 職を得ることができる | 6人 | ※記載不要です。半年後に資金分配団体から実行団体へヒアリングします | ※記載不要です。半年後に資金分配団体から実行団体へヒアリングします |
| 受入企業・団体 | その他 | 地域の飲食店やNPOにおいてICTを活用した広報サポートを行う | 事業参加者数、受け入れ企業(学校)数、受け入れ期間・時間、成果物の数と内容 | 12人、6企業、24校、1カ月～4カ月、成果物2点/1人 | 15名 (途中退職者含む) 3.5～4か月継続 成果物としての編集動画やSNS発信ができなかった若者は5名(うち3名は途中退職、1名はパート) | コロナにより多くの飲食店が業務時間などが随時変更され、お店紹介サイトでは確認と修正が追いつかず、その業務をサポートした。また、SNS発信ができなかったNPOの広報をサポートし、売り上げに貢献できた。 |
| 受入企業・団体 | その他 | 小中学校で消毒ボランティアを行う | 事業参加者数、受け入れ企業(学校)数、受け入れ期間・時間、成果物の数と内容 | 12人、6企業、24校、1カ月～4カ月、成果物2点/1人 | 15名(途中退職者含む)小学校3校にて9.5ヵ月実施 各1.5時間×2名 | 消毒だけでなく人手が足りないトイレや校内の掃除が多い学校もあった。職員の業務を減らすことができた。 |
| 受入企業・団体 | その他 | 小中学校で消毒ボランティアを行う | | | | 岐阜県の教員の平均給与(42.1歳、月給363,142円)で計算すると、1日3時間でおよそ1ヶ月136,178円の職員の給与につながり、9.5ヶ月の活動で3,881,073円(1校1,293,691円×3校)の削減に寄与できたと考えられる。 |

IV. アウトカム(事業実施以降に目標とする状況)*

| | |
|-----------------------|--|
| 事業実施以降に目標とする状況 | 岐阜地域において、Withコロナ時代の新しい営業方法・販路拡大方法としてICTの活用が根付き、その担い手として若者の雇用の機会が広がる。また、ICTを活用しテレワークなどの働き方のスタイルも浸透し、ジョブ型雇用や業務委託など、若者の働き方の選択肢も増える。消毒ボランティアに関しては事業として独立する可能性も検討し、若者が地域の課題解決に関わりながら自尊感情を育てる場として機能する。 |
| 考察等 | コロナ禍により、想定したICT支援業務ができなくなり、飲食店での動画制作の機会やSNS発信などはできなかったが、当団体内の業務について動画制作をしたり、他部門の広報用動画を撮影したり、と社内業務に切り替え実施することができた。当事業の説明用ホームページを作成したり、自分たちがみにつけられたことのコメントなど他者に発信することができた。テレワークや働く時の選択肢までのスキルには難しかったが、体験することで身に就いたことや向き不向きは理解できていた。地域小学校におけるスクールサポート業務は、放課後の学校内の消毒や清掃作業をおこない、先生方に本来の業務に専念してもらう余裕を生み出すことが出来、好評であり、本人たちにも直接感謝をもらえることで、本人たちの満足度の向上、今後の就労意欲の向上に繋がった。 |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|--------------------|--------|---|
| 地域の飲食店に対するICT支援 | 中止 | コロナ感染が増え、緊急事態宣言や蔓延防止措置が発令され、ほとんどの店舗が休業となったため。 |
| 小学校における消毒業務 | 計画通り | コロナ禍で職員の仕事が増えたが、市からの補助金対象とならない小学校3校の消毒やトイレ掃除をサポート。 |
| 地域活性のためのNPO活動のサポート | ほぼ計画通り | 感染対策をしつつ開催された地域活性化イベントの事務局業務をサポート。NPOの業務も増えて人手が足りなくなっていた。 |
| NPOの活動推進のためのSNS支援 | ほぼ計画通り | NPOの資金調達の1つである食品販売の広報をサポート。チラシ作成やSNS発信で貢献できた。 |
| 動画編集技能習得訓練 | 計画通り | 応募のきっかけと技術習得を目的に、動画編集技能訓練を実施した。賃金を得ながら学べる機会となった。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|---|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | <p>体調やメンタル不調により、退職とならなくても出勤日が少なく、業務に係ることが少ない若者が複数おり、就労前の体力や体調を整えることまでは想定しておらず、出来ることができないまま雇用を終了せざるを得なかった。また、就労困難の若者の多くは、就労経験が乏しいだけでなく、コミュニケーションが苦手な外とのつながりが希薄であることや一定期間の引きこもり期間を経ている若者もおり、意思疎通をはかることが難しく、業務内容やフィードバックがスムーズに伝わらなかったり、自身の思い込みが強く業務に真摯にとりくめない等の課題がみられた。動画作成等、未経験職種の訓練や実践をすることで、自分の興味を仕事としてやってみたいとの方向性となり、職業訓練や仕事につながった若者がいた。また、逆に苦手であることを認識し、ストレスなく出来る範囲を見極め次の職種選びに迷わなくなった若者もいた。</p> |
|---------------------|---|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|---|
| 課題を取り巻く変化 | <p>事業終了日が、偶然にも緊急事態宣言の解除日となり、飲食店やイベント、観光業なども今後再開していくと考えられ、仕事の募集なども増えてくると思われる。対象者は、技能習得訓練やいくつかの業務に携わったことで、自分の「働ける状況」の理解が進み、自分にあった働き方、職種に応募できるのではないかと考えられる。また、一般就労しか考えていなかったが、福祉につながる方が自分らしく働けるとわかった人もいて、以前より生きやすくなったと思われる。</p> <p>また、現在の自分の状況、理解が深まったことにより、逆に働かない選択となった人もいる。</p> <p>就労経験が未熟な若者は、まず5か月間の契約期間をやり切り、その後就活に向かう人もみられるが、一人では難しいため、継続的な支援や専門的な支援を受けながら進めている人もいる。</p> |
|-----------|---|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|---------------------|--|
| 岐阜市教育委員会 | 事業実施期間中、3小学校の消毒・清掃業務をサポート。滞りなく実施。 |
| NPO法人ORGAN | 長良川おんぱくの事務局業務のサポート。完了。 |
| 世界のタマミヤプロジェクト | 岐阜駅前の飲食店街「玉宮町」を盛り上げるべく https://gifutamamiya.com/ のサイトのデータ更新、動画作成をする予定でしたが、コロナ対応の情報を集めることに終始した。 |
| NPO法人コミュニティサポートスクエア | 資金調達の1つであるランチ販売の集客・広報のため、チラシなどの広報物作成や、毎日のSNS発信を行った。ランチは毎日完売であった。 |

IX. インプット ※事業完了月の経費精算書の金額を入力ください。

| | | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|------|-------|--|------------|--------|
| 事業費 | 直接事業費 | 2,999,120 | 4,055,905 | 135.2% |
| | 管理的経費 | 1,144,000 | 953,328 | 83.3% |
| | 雇用関連費 | 6,986,880 | 5,506,686 | 78.8% |
| 合計 | | 11,130,000 | 10,515,919 | 94.5% |
| 補足説明 | | <p>直接事業費が計画より増えたのは、当初想定していたより雇用者が業務を進めることが困難で、サポートすることが多く、勤務時間が増えたこと、スタッフを増員したことによる。逆に雇用関連費が少なかったのは、事業初めに雇用者が予定人数に達しなかったこと（少しずつ増えた）、途中離職者、ショートタイム雇用者がいたため。</p> | | |

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|-------------------------------|--|
| 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） | 読売新聞（全国版）2021年2月2日掲載 FMわっち「Not Alone わおん」8月放送ゲスト出演 |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの | タウンワーク（紙面・デジタル）求人応募×2回 求人募集チラシ×2回（配布及びSNSにて利用） オリジナルホームページ作成。プロジェクト案内動画作成。ツイッターアカウント作成・プロジェクト発信。 |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例） | 訓練室ついたてパネルへの表示 |
| 4.報告書等 | 事業評価報告書。 |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 | 状況 | |
|---|---------|---|
| ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む) | | |
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | ①倫理規定 ②利益相反防止に関する規定 ③コンプライアンスに関する規定 ④公益通報者保護法に関する規定 ⑤情報公開規程 ⑥文書管理に関する規定 ⑦リスク管理規程 ⑧監事の監査に関する規程 ⑨会計規程 ⑩組織規定 |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。 | 全て公開した | |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更はなかった | |
| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
| 1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | はい | |
| 4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。 | はい | |
| 5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | はい | |
| 6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | 内部監査 | |
| 7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8.内部通報制度は整備されていますか。 | はい | |